

パリコレ、ニューヨークコレで1つのトレンドをうち立てるよりも、もっと多くの人達が喜んでくれる。「たかが2億円で……」すばらしいアピールをしているのではないと思う。体力と知力と総てのエネルギーがある今、準備に2年間かかるが、もう1回、もう1回というかたちで積み重ねていこうと決意している。

次に選んだのがあの最強の軍事大国アメリカを負かしてしまったベトナム人。ベトナムってどういう国なんだろう。死傷者が人口の1/4、今だに田圃の中に爆弾の跡がハチの巣のように残っている国。ベトナムとロシアを比較してロシアの方が楽であった。というのは、ロシア人は全体的にヨーロッパの出来事を知識として理解している。一方ベトナムは、ほとんど鎖国状態に近い環境の中、私どもが入っていった。ハノイでのスーパーショーは20万人の人々が集まり、成功をおさめることが出来た。又、トラブルが発生した時のために予算化していた10万ドルを寄附しハノイのオペラ座近くの芸術大学にファッション科が山本寛斉氏の尽力により完成したことも付け加えておきたい。

ロシアでのスーパーショー20分、ベトナムのハノイでのスーパーショー10分のビデオは、ステージ上で騎馬戦あり、花火、和太鼓ありとそのスケールの大きさに圧倒された。これらのスーパーショーは、動員数を見るだけでもスケールの大きな、いわゆる山本寛斉流スーパーショーであると、出席者の誰もが感じたにちがいない。準備の

ための苦労話やウィットにとんだ話し方は、寛斉氏の人柄が表われ、何か親近感を覚えたのは私だけだろうか。ロシア・ハノイでの経験は、それまでファッションを通じて世の中を見てきたが、もっと人間の行為みたいところで、それが自動車であったり、携帯電話、リビングであったり、新たに“CC寛斉”として幅広く展開中である。

(レポート 今野 文雄)



## 懇親会パーティー



総会とそれに続く山本寛斉氏の特別講演の後、夕方5時から同じ東京ファッションタウンビルの2Fにあるフロント（カフェ&ダイニング）に於いて多数の参加を得て会費制の懇親パーティーが開かれた。寛斉氏も出席され会員の皆様と一緒にのスナップ写真に入られるなどなごやかで楽しい交歓会になった。そして午後7時になって昼過ぎから始められた総会関連の1日の行事が滞りなく終了した。